

## 建設業経理士試験 1 級（財務分析）レジュメ

弥生カレッジ CMC

### <第 5 問で出てくる各数値の覚え方・考え方>

分析の原則→C/FとP/LとBS並べて右が分母

（例外→未成工事収支比率、立替工事比率、月数は分母が売上÷12、金利負担能力は倍、  
配当性向は配当の割合）

PLとBS比較の時は一部を除いてBSは期中平均による

付加価値＝売上－仕入－外注費－労務外注費（控除法）

流動資産や流動負債から建設業特有の未成工事支出金と未成工事受入金を除く（但し、運  
転資本は今後の運転資本なので引かない）

但し、第 19 回はそのような指示がないので引かない方が無難（引いても大丈夫だとは思  
う  
∵合格率が 40%とここ 10 回で最高だから）

負債や利子に社債分を忘れるな！！

有利子負債にコマーシャルペーパー忘れるな

有形固定資産が分析に関係する時は建設仮勘定は控除する

CP：企業が短期で資金調達  
するための、無担保の約束手  
形のこと（銀行でも扱う）

純支払利息（支払利息－受取利息）比率の場合は売上高と対比

<第19回>

- ① 事業利益（経常利益＋支払利息）  
資本調達コスト（＝支払利息）を除いた経常的な利益  
資本構造を除外した利益管理（日本のプライマリーバランスみたいなもの？）
- ② 準キャッシュフロー（覚えるのは難）  
営業利益（当期純利益±法人税調整額＋引当金増減＋減価償却費－配当）  
語呂でいくなら（当包丁でインゲンを配当する）
- ③ 営業キャッシュフロー（建設業経審の計算式のまま）覚えるのは難  
経常利益＋減価償却実施額－法人税住民税及び事業税±引当金増減額±売掛債権増減額±仕入債務増減額±棚卸資産増減額±受入金増減額）  
語呂大変だが（軽減税率引け、あとはいつものプラスマイナス）
- ④ 建設業の簡易CVP

	区分	イメージ
完成工事高		
完成工事原価	変動費	これはイメージ通り
販売管理費	固定費	これもイメージ通り
営業外収益	収益－費用を変動費に 収益多い場合は変動費から マイナス	収益 1,000 費用 500
営業外費用		変動費から 500 引く 収益 500 費用 1,000 変動費に 500 加算
支払利息	固定費	資金調達は常にある(固定)

- ⑤ 運転資本は実際の値を知りたいので未成は引かない。さらに2期平均でもない。今から先の運転状況なので、1年前の情報はいらぬ
- ⑥ 受取勘定回転期間→売上債権を何か月の売上で回収できるか（将来に向けた予定なので平均なし）  
（日）と書いていれば売上債権を何日の売上で回収できるか
- ⑦ 支払勘定回転率（仕入債務が売上の何倍あるか？）
- ⑧ 経営資本（総資産－建設仮勘定－投資その他の資産－繰延資産－遊休設備）  
ケントク（“特権有する“でも良い）
- ⑨ 労働装備率と資本集約度は難しい！  
  
生産性の基本公式覚えよう→付加価値／総職員数（平均）

完成工事高で分解（一人当り売上高 × 付加価値率）

集約→1つにマトメル事

総資本で分解（総資本／総職員 × 付加価値／総資本）  
資本集約度 総資本投資効率

1人にマトメル→1人あたり総資本

有形固定で分解（有形固定資産／総職員 × 付加価値／有形固定資産）  
労働装備率 設備投資効率

投資効率は付加価値をあげるための効率と考えよう

上記算式は元が総職員数だから2期平均→関係式の中ではBS項目同志でも2期平均

<第 18 回>

- ① 借入金依存度（全資産の中の借入金）
- ② 純支払利息（支払利息－受取利息）比率の場合は売上高と対比
- ③ 資産回転期間（日）→1 日売上高を算出し、その売上げの何倍の資産があるか  
もちろん資産は期中平均

<第 17 回>

- ① 未成工事収支比率は分数の例外  
未成工事受入金 / 未成工事支出金
  
- ② 必要運転資金→手形（受取と支払）と掛（売掛と買掛）と未成工事（支出と受入）の差額  
額<要は、入ってくるお金と出ていくお金の差额的なイメージ>  
未成工事支出金→売上入金になる 未成工事受入金→入金の減額
  
- ③ 必要運転資金月商倍率→月売上高を算出し、その売上げの何倍の資金があるか
  
- ④ 有利子負債月商倍率→月売上高を算出し、その売上げの何倍の有利子負債があるか  
（有利子負債にコマーシャルペーパー忘れるな）
  
- ⑤ 受取勘定回転期間→売上債権を何か月の売上で回収できるか（将来に向けた予定なので平均なし）

